

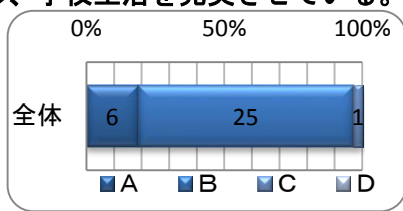
山形市立東小学校 (対象：本校教職員32名) 平成29年1月実施

「学校運営について」の自己評価(教職員アンケートをもとに)の分析と改善策

【学校運営について】

①児童は、目標を持って生活し、学校生活を充実させている。

選択項目	割合%	人数
A そう思う	19%	6
B ややそう思う	78%	25
C あまりそうは思わない	3%	1
D そうは思わない	0%	0
合計	100%	32

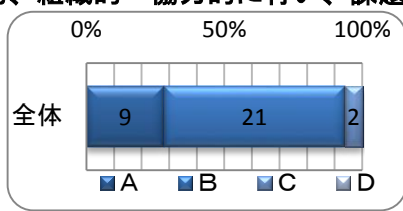


分析と具体的手立て

A・B評価が97%である。
 目指す子ども像は、教師が共有する指導の指針である。「かしこさ」「やさしさ」「たくましさ」について、成長に応じて身に付けてほしい力を定めて、成長を期待する姿や成長への見通し、目指すゴールを具体的に示して指導にあたるようにする。

②学校は、教育の実践を意図的、組織的・協力的に行い、課題の解決が図られている。

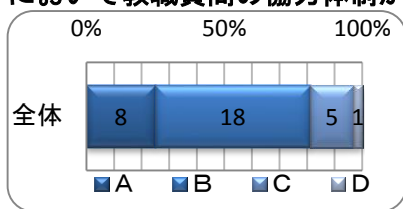
選択項目	割合%	人数
A そう思う	28%	9
B ややそう思う	66%	21
C あまりそうは思わない	6%	2
D そうは思わない	0%	0
合計	100%	32



A・B評価が94%である。
 様々な教育活動においては、そのねらいを明らかにして取り組ませる必要がある。ねらいや付けたい力を共有し合い、一部の教員等に負担や偏りが重ならないような手立てを講じていくようにする。学年内や学年間の連携を大切に、子どもたちの指導にあたるようにしていく。

③校務分掌や学校・学年経営等において教職員間の協力体制ができていて、同僚性が発揮されている。

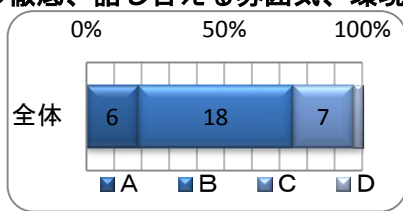
選択項目	割合%	人数
A そう思う	25%	8
B ややそう思う	56%	18
C あまりそうは思わない	16%	5
D そうは思わない	3%	1
合計	100%	32



A・B評価が81%である。
 教員間の考えや願い、価値観等の確認・共有が課題となっている。学校経営の重点に沿った取り組みができていないか、子どもを第1に考えた実践がなされているか、学校全体や学年で常に吟味し、同一の歩調で学校運営を進めていく必要がある。

④教職員間の情報交換、連絡の徹底、話し合える雰囲気、環境づくりがなされている。

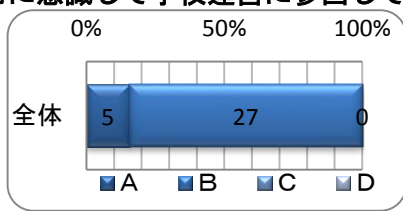
選択項目	割合%	人数
A そう思う	19%	6
B ややそう思う	56%	18
C あまりそうは思わない	22%	7
D そうは思わない	3%	1
合計	100%	32



A・B評価が75%である。
 教職員間の縦と横のつながりや連携について考えていく必要がある。報告、連絡、相談の励行は今後も継続していくが、様々な機会をとらえてできるだけ多くの情報を共有できるように努めていく。また、ストレスを溜め込まないような手立てや勤務時間調整等も図っていくようにする。

⑤学校目標や経営の重点等を常に意識して学校運営に参画している。

選択項目	割合%	人数
A そう思う	16%	5
B ややそう思う	84%	27
C あまりそうは思わない	0%	0
D そうは思わない	0%	0
合計	100%	32

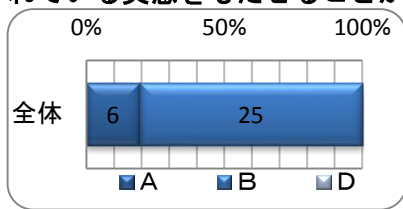


A・B評価が100%である。
 各学年においては、成長に合わせて学校教育目標や目指す子ども像について、具体的な姿として表し、子どもたちに分かりやすく伝えることを心がけてきている。私たちの指導のよりどころとして、今後も教育目標等を常に念頭に置いて子どもたちの教育にあたるようにする。

【学校経営について】

⑥子ども一人一人に、大事にされている実感をもたせることができている。

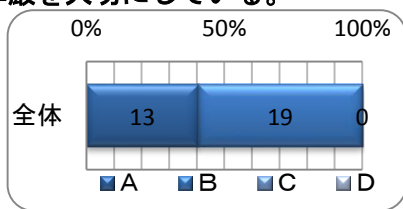
選択項目	割合%	人数
A そう思う	19%	6
B ややそう思う	78%	25
C あまりそうは思わない	3%	1
D そうは思わない	0%	0
合計	100%	32



A・B評価が97%である。
 私たちは、子どもたちの成長を価値付け、個性や特性をとらえた指導・支援を心がけてきている。個性は、授業の中でこそ輝くものとして、授業づくりや授業実践においては、集団や個の力が十分に発揮できるような学習を展開していくようにする。生徒指導面でも、全職員が共通理解をもって子どもを見守っていくようにする。

⑦子どもの尊厳や同僚相互の尊厳を大切にしている。

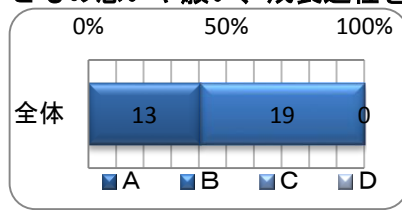
選択項目	割合%	人数
A そう思う	41%	13
B ややそう思う	59%	19
C あまりそうは思わない	0%	0
D そうは思わない	0%	0
合計	100%	32



A・B評価が100%である。
 本校の学校経営の重点である「尊厳」を大切にしている指導実践が常時行われていると言える。子ども同士、子どもと教師、教師同士が話を聞き合い、その人の表現を理解しようとするスタンスを根本に据えてこれからも指導にあたるようにする。

⑧主体性を育成するために、子どもの思いや願い、成長過程を大事にしている。

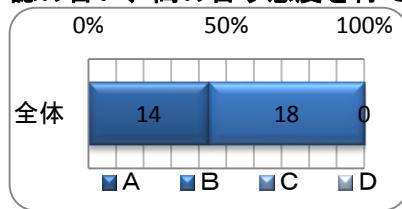
選択項目	割合%	人数
A そう思う	41%	13
B ややそう思う	59%	19
C あまりそうは思わない	0%	0
D そうは思わない	0%	0
合計	100%	32



A・B評価が100%である。
 主体性は、解決への手立てが不明なことにも進んで取り組む力であり、自ら進んで学習等に取り組めるように、適切な学習課題を設定すると共に、解決の過程で出てきた子どもたちの思いを尊重しながら学習を展開していくことを大切にしている。

⑨仲間とのかかわりを通して、認め合い、高め合う態度を育てている。

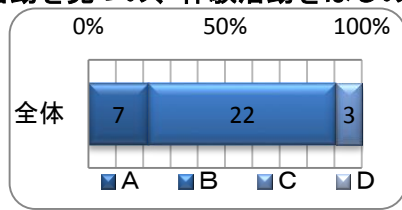
選択項目	割合%	人数
A そう思う	44%	14
B ややそう思う	56%	18
C あまりそうは思わない	0%	0
D そうは思わない	0%	0
合計	100%	32



A・B評価が100%である。
 本校で取り組んできた学校研究の成果が表れている。これまでの実践の積み重ねから、子どもたちは、学び合うことでさらに深く、広い理解に結び付くという実感をもてるようになってきている。本校ならではの学び合いのスタイルの確立に向けて、学校研究をさらに進めていく必要がある。

⑩子どもの目線に立って教育活動を見つめ、体験活動をはじめ価値ある教育活動の精選を図っている。

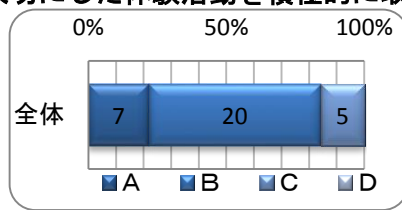
選択項目	割合%	人数
A そう思う	22%	7
B ややそう思う	69%	22
C あまりそうは思わない	9%	3
D そうは思わない	0%	0
合計	100%	32



A・B評価が約91%である。
 本校の学区の特長を生かした教育活動が展開されるようになってきたが、学校や学年において、新たな教育活動を創造したり、教材を開発したりするまでには至らなかったように思う。今後も、自然環境や社会的環境、地域の教育力を見直し、特色ある体験活動等の創造につなげていけるように努める。

⑪自然や社会とのかかわりを大切に体験活動を積極的に取り入れている。

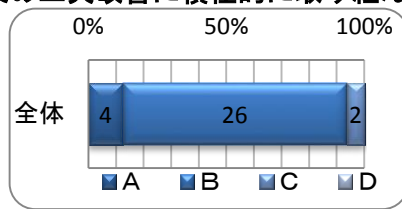
選択項目	割合%	人数
A そう思う	22%	7
B ややそう思う	63%	20
C あまりそうは思わない	16%	5
D そうは思わない	0%	0
合計	100%	32



A・B評価が85%である。
 今年度も、眼前に広がる馬見ヶ崎川河川敷の豊かな教育環境を十分に活用していない感がある。いろいろな教科での継続的な活用を考えていく必要がある。植栽が十分できない校地環境もあるが、その分、生活科や総合的な学習の時間を活用して、豊かな馬見ヶ崎川の自然に十分に触れ合える活動を設定していく必要がある。

⑫確かな学びを目指して、授業の工夫改善に積極的に取り組んでいる。

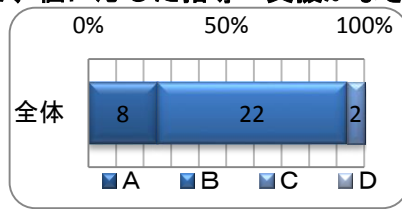
選択項目	割合%	人数
A そう思う	13%	4
B ややそう思う	81%	26
C あまりそうは思わない	6%	2
D そうは思わない	0%	0
合計	100%	32



A・B評価が約94%である。
 5年次となった研究主題に則って授業実践と授業改善を進めてきた。アクティブラーニングや探究型学習の推進に向けて、学力観や指導観の転換を求められているが、理論を踏まえ、授業研究の積み重ねと実践の振り返り、反省を生かして確かな学力の育成につなげていくようにする。

⑬基礎・基本の定着を目指して、個に応じた指導・支援がなされている。

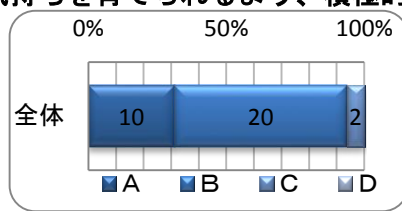
選択項目	割合%	人数
A そう思う	25%	8
B ややそう思う	69%	22
C あまりそうは思わない	6%	2
D そうは思わない	0%	0
合計	100%	32



A・B評価が約94%である。
 学習のベースとなる「聞く」「話す」「書く」「計算する」の力の育成を重視して指導にあたってきた。徐々に各学年で基礎・基本の力の定着が図られてきている。家庭学習の仕方や学習の約束を子どもたちと確認し、共有し合い、家庭と連携したくり返しの学習、積み重ねの学習を今後も大切にしている。

⑭命の重みや他を思いやれる気持ちを育てられるよう、積極的に取り組んでいる。

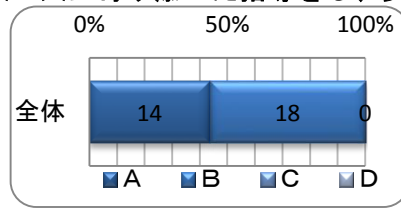
選択項目	割合%	人数
A そう思う	31%	10
B ややそう思う	63%	20
C あまりそうは思わない	6%	2
D そうは思わない	0%	0
合計	100%	32



A・B評価が約94%である。
 最も大切に指導しなければならない学習や営みであり、今後一層本校なりの特色ある教育活動を創造していく必要がある。保健室と連携した「いのちの学習」や道徳、安全教育等の充実と日常的な指導及び啓発をくり返し、常時命の尊厳を大切にすることを推進していく。

⑮いじめ等の問題に対し、一人一人に寄り添った指導をし、安心できる学校・学年・学級経営を行っている。

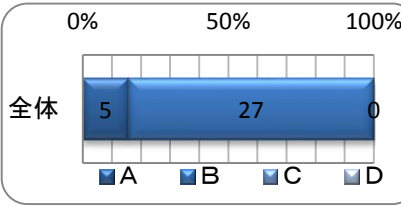
選択項目	割合%	人数
A そう思う	44%	14
B ややそう思う	56%	18
C あまりそうは思わない	0%	0
D そうは思わない	0%	0
合計	100%	32



A・B評価が約100%である。
いじめほどの学校でも起こるものという思いをもって、定期的なアンケート調査や聞き取り、日頃の観察等を通して、子どもたちの実態把握に努めた。幸い、いじめの発現はごく少数であったが、いじめ発生時の早期発見や組織的対応に努めてきた。今後も、日頃よりいじめを起こさせない人間関係の構築や学校生活の充実に努めていくようにする。

⑯子どもたちに適切なコミュニケーションのスキルを育てている。

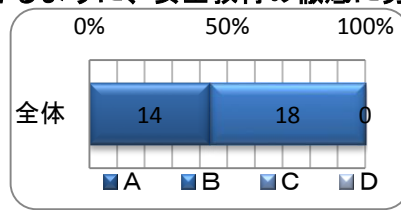
選択項目	割合%	人数
A そう思う	16%	5
B ややそう思う	84%	27
C あまりそうは思わない	0%	0
D そうは思わない	0%	0
合計	100%	32



A・B評価が約100%である。
高学年児童の適切なかわりにより縦割り班活動による異学年交流が円滑に進められるようになってきた。異世代交流が今後の課題と考えられる。地域の教育力を活用し、各学年の教科の学習や領域の中で、異世代とどのように効果的に交流活動ができるのかを考えていく必要がある。

⑰けがや事故のない生活ができるように、安全教育の徹底に努めている。

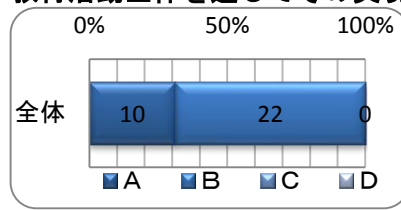
選択項目	割合%	人数
A そう思う	44%	14
B ややそう思う	56%	18
C あまりそうは思わない	0%	0
D そうは思わない	0%	0
合計	100%	32



A・B評価が約100%である。
安全教室等での集中的な指導の他に、安全な学校生活の実現に向けて、日々の啓発に力を入れていく必要がある。落ち着いた学校生活が営まれている今だからこそ、指導の時間を計画的に設定して、事故や危険を予測する力やそれらから回避する力を一人一人育成していかなければならないと考える。

⑱健康な身体づくりを目指し、教育活動全体を通してその実現に努めている。

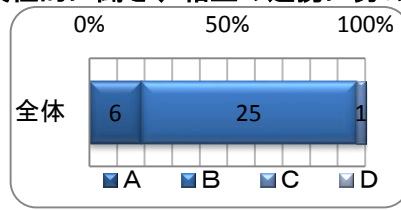
選択項目	割合%	人数
A そう思う	31%	10
B ややそう思う	69%	22
C あまりそうは思わない	0%	0
D そうは思わない	0%	0
合計	100%	32



A・B評価が約100%である。
本校では、いつでも運動に取り組めるようにグラウンド等の運動環境整備等を欠かさず行ってきた。高学年を中心に運動に取り組もうとする意識は高いが、より日常的、継続的な取り組みとなるよう、適切な運動課題の設定等を吟味していく必要がある。体力や運動能力の向上も、本校の課題となっているので改善の手立てを講じていくようにする。

⑲家庭やPTA、地域の声を積極的に聞き、相互の連携に努めている。

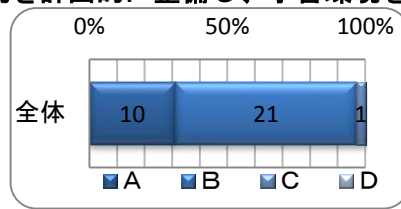
選択項目	割合%	人数
A そう思う	19%	6
B ややそう思う	78%	25
C あまりそうは思わない	3%	1
D そうは思わない	0%	0
合計	100%	32



A・B評価が約97%である。
各学年・各学級では、定期的に子どもたちの様子をお便りで発信することに努めた。ご家庭からの相談があったときには、誠実で公平な対応と共に真摯に話を聞くことを心がけてきた。十分に話し合うことで、子どもたちの健全育成に役立つための情報交換や意見交換を行うことができたのはよかった。保護者の皆様のご協力に心から感謝したい。

⑳校舎を大切にして、学校環境を計画的に整備し、学習環境を整えと共に、施設の維持・管理に努めている。

選択項目	割合%	人数
A そう思う	31%	10
B ややそう思う	66%	21
C あまりそうは思わない	3%	1
D そうは思わない	0%	0
合計	100%	32



A・B評価が約97%である。
新校舎になって6年が経過したが、今年度も子どもたちも教職員も、校舎をとて大切に使うことができた。今年度は、創立35周年の記念すべき年だったこともあり、「学校」や「校舎」への思いを考えるよいきっかけとなる1年であった。ただし、校舎内外で経年劣化も見られるようになってきており、何年か先を見越した環境整備計画の立案も必要となっている。

< 結果からの考察 及び 今後に向けて >

保護者アンケートと同様に、AとB合わせて85%以上の評価があった場合、概ね良好ととらえていく。

今年度は創立35周年の記念すべき年度であり、太陽の子たちや保護者の皆様、地域の皆様と共に、思い出に残る1年にしようという願いをもってスタートした。幸い、様々な記念事業について、皆様から多大なご協力を得て、計画通りに実施できたことはよかった。1年を通して学校の創立を祝う思いを共有できたのではないかと思う。

学校研究については、アクティブラーニングや探究型学習の実現に迫るために、あれこれと試行錯誤が続いている。教職員が共通理解をもって授業づくりや授業実践を進めるまでにはまだ至っていないが、授業実践の成果と課題を明らかにして、研究主題に掲げる子どもたちの学びの姿に迫れるように努めていく。

いじめの対応等は、職員間で共有できるようになってきている。いじめは起こるものという考えに立ち、未然防止を第1として授業の充実や生徒指導に充実に努めるようにする。日常のかかわり合いを大切にして、一人一人をよく見つめて変化をとらえると共に、変化に応じた心に響く・心に届く指導を心がけていくようにする。

学校運営に係る5項目については、CとD評価が相応に見られた。CとDの意見を大切にしながら、改善に向けて努力していく。情報交換を密にすることが必要であり、ゆとりの時間の創造が課題である。また、遠慮しないで話し合える職場づくり、雰囲気づくりに努めていきたい。報告、連絡、相談がいかに大切であるかについての啓発も継続していく。

AとB評価が100%の項目が多かったのも、今回の評価の特徴である。自信をもって教育活動にあたれていることがうかがえる。大切にしていきたい。ただし、現状や成果に甘んじることなく、さらに、教員としての資質向上を目指していかなければならない。今年度は、一人複数回の各種研修会参加が実現できたようだが、ライフステージや経験年数、校務分掌に応じた専門的な力を高めるための研修を、積極的に受けていかなければならない時勢になっている。一人一人が計画的に研修を受講していけるような計画の立案等が求められる。また、新学習指導要領による授業実践が目前に迫ってきている。行事の精選をはじめ、授業時数等の確保や時間割の編成等で、本校に合った、本校らしいカリキュラムの作成に取り組んでいかなければならない。

平成29年度は、市教委計画訪問が計画されており、子どもたちの学びの様子や私たちの指導の在り方についてご指導いただける機会に恵まれる。その他にも、保護者の皆様や地域の皆様からのご意見やご助言を通して、学校としての成果や課題を明らかにし、必要な改善を加えて、よりよい学校運営に役立てていきたいと考える。